

第6回搜索訓練報告

搜索訓練担当 救助隊運営委員 岡林絵里香

今年で6回目となる搜索訓練が11月12日（日）に行われ、無事に修了いたしました。

日時：2017年11月12日 AM7:30～
場所：大岩岳 本部 千刈浄水場駐車場
救助隊員参加者：8名
一般参加者：山の会二十渉 2名

*** 今年の試み ***

- ① 事前打合せで重点的に捜すところを決める。
- ② 地図アプリで探した経路の履歴を取る。
今回はYAMAP（ヤマップ）を使用。
- ③ ヒトココを使用してみる。



①事前打合せの地図
A～Mが重点搜索地点

遭難設定：11/9(木) 大岩岳から下り時に遭難
11/10(金) 警察&自会で搜索するが未発見
11/11(土) 救助要請

11月11日(土)

AM10:00 連盟の三役に救助要請の電話
三役より救助隊出動要請

AM10:46 松本救助隊長より召集メール

PM17:00 玉造連盟事務所にて救助隊運営員5名と救助隊員1名で明日の搜索訓練の打合せと必要装備の準備を行った。

11月12日(日)

AM7:30 救助隊運営委員は本部テントを設営し搜索訓練の準備。

無線中継係の松本救助隊長が今回の遭難者役の人形を隠しに行く。

AM9:00 一般参加者集合 搜索訓練の説明 3班に分かれ搜索担当場所を決める。

1班2名：A B C D地点 2班2名：E F G H地点 3班3名：I J K L M

AM9:30 搜索隊出発

AM10:35 2班がG地点にて要救助者発見

AM10:42 他の班はヒトココをオンにしてG地点まで移動

AM11:30 全班G地点にて遭難現場の確認後、12時まで休憩

AM12:00 全班G地点より30分圏内でヒトココを隠しに行く

AM12:26 全班ヒトココを隠し終え、他班のヒトココを搜索

AM12:54 2班ヒトココを発見
AM12:56 1班ヒトココを発見
AM13:45 3班ヒトココを発見できないまま訓練終了
AM14:35 松本隊長と全班が本部に到着
AM15:00 反省会



*****反省会*****

松本救助隊長（このはな山の会）

これからは遭難者の搜索が救助隊の活動で一番多くなると思われます。
今日ここで訓練したことを持ち帰り、自会でも訓練してみても良いのではないかと。

村中（豊中勤労者山岳会）

搜索本部は無線交信の段取りとかあるので、毎年1回訓練しないとイケません。ヤママップは後からログを見れるので、良いと思いました。ヒトココでどれだけ探せるかわからなかったのを試せて良かったです。

大見（アウトドアオールラウンダーズ）

ヒトココで後もう少しのところで見つけれなかったのを、思い込みは止めて徹底的に搜索しないとイケないと思いました。

山下（このはな山の会）

ヒトココを試せてよかった。ヒトココはヘリと連携して使えるものだと思います。

市川（このはな山の会）

低山でよく迷うので、自分が迷った時にどう迷うかを考えて搜索していました。

水川（このはな山の会）

初めて搜索訓練に参加しました。下りで迷った設定だったので、踏み跡を辿り下って行くと人形が転がっていた。今日は良い経験ができたので、今後につなげていければ。

佐藤（雑木の会）

昨日から参加していたが、全てが初めての事なので新鮮で面白かったです。

丹波（山の会二十渉）

ヒトココ子機をみつけられなかった。ヤブに踏み込んでいけないといけなかった。

夏目（山の会二十渉）

今日は初めて参加しました。ヒトココを使ってみて良かったです。

ただ、あっても探すことはなかなか難しいです。

岡林（豊中勤労者山岳会）

昨年と今年と搜索本部だったので、次回は搜索隊に加わってヒトココを使ってみたい。

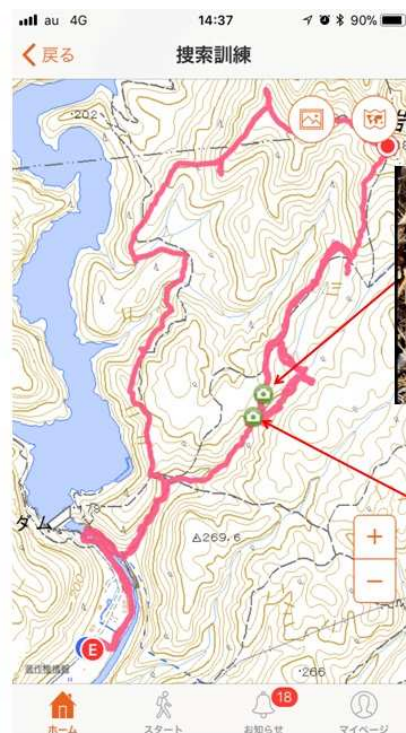
ヒトココを使用しての感想まとめ

地形によって子機の電波が安定しない

親機と子機が近付くと精度は上がる

親機1台で広範囲を搜索するのは難しいので何台かで搜索した方がよい

ココヘリを併用すること位置情報の精度が上がるのではないかな



② YAMAP(ヤママップ)
遭難者を発見した班のログ
なだらか地形のところで踏み跡をたどって行って遭難者発見！

② YAMAP(ヤママップ)
後から駆け付けた班のログ
親機の矢印が示している方に遭難者がいる。

昨年までの搜索訓練では基盤の目に区切ってエリアを決め、面での搜索でしたが、今年、登山道で下山時に迷いそうなポイントを決め、そこを重点的に搜索することに。たとえば、尾根で右に下らないといけなところをそのまま直進しそうな地形の場所や踏み跡が少し付いていて、そちらに誘われそうな場所など。

搜索前に搜索隊全員にYAMAP(ヤママップ)というGPS地図アプリをスマホにインストールし起動してもらいました。搜索隊を3班に分けて、それぞれ搜索担当場所を決め重複しないように搜索しました。

ヒトココ子機が付いた遭難者役の人形を午前中はヒトココを使わずに、午後から使用して搜索するはずが、搜索開始後1時間ぐらいで人の踏み跡から人形を発見してしまったので、午後からは、各班がヒトココ子機を隠して他の班が探すというヒトココ搜索訓練にしました。

二つの班は無事に発見することができましたが、一つの班は沢筋に隠されていた為に電波がうまく拾えずに発見することができなかつたようです。

今後、機会があればヒトココ子機の電波発信の強さや親機の電波受信の能力がどれくらいなのか検証してみたいと思います。

この搜索訓練は、6年前に労山会員の六甲山での遭難死亡事故が起きたことが始まりです。

遭難者を搜索する為に、迅速且つ安全に救助隊が出動する訓練となります。

次回の搜索訓練には、救助隊員や会単位での参加をお待ちしています。(2019年11月に予定)



③ ヒトココ親機
子機の方角と距離を表示



遭難者役の人形
かなり不気味。。